

### 伏木富山港—モスクワの物流

【モスクワで政治部・中谷蔵・石井隆一知事は14日、伏木富山港へのコンテナ定期航路を運航するロシア大手輸送会社FESCO(フエスコ)の本社で、イスリン社長と会談した。知事は、シベリア鉄道を活用した輸送のスピードアップを改めて要請、イスリン氏は、プーチン大統領から日数を短縮するよう指示を受けており、鉄道会社が車両を近代化する意向を説明した。

県が貨物量拡大を狙うルートは「シベリア・ランド・ブリッジ」(SLB)と呼ばれ、同港からウラジオストク港まで定期船で運び、そこからモスクワへはシベリア鉄道を使う。主流となっているスエズ運河経路の海上ルートは35、40日要するのに対し、輸送日数を2週間程度に短縮できることから、県は実証実験にも取り組んでいる。

イスリン氏は、日数を15日間にする為早道プロジェクト。極東航路の活性化に向けて船隻交換した石井知事(右から)とイスリン社長(左から)の自撮り写真

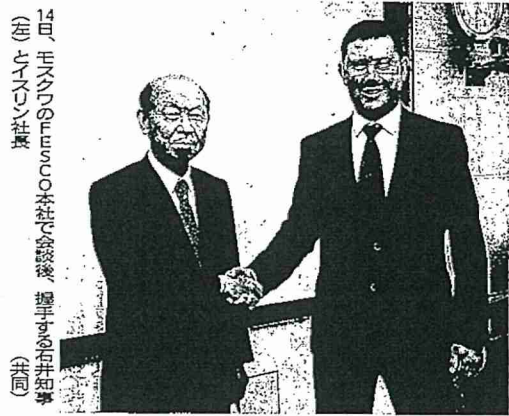
# 口側「日数短縮着手」

## 輸送大手知事に説明

【モスクワで政治部・中谷蔵・石井隆一知事は14日、伏木富山港へのコンテナ定期航路を運航するロシア大手輸送会社FESCO(フエスコ)の本社で、イスリン社長と会談した。知事は、シベリア鉄道を活用した輸送のスピードアップを改めて要請、イスリン氏は、プーチン大統領から日数を短縮するよう指示を受けており、鉄道会社が車両を近代化する意向を説明した。

# 15日に短縮が目標

口船舶公社社長 日本からモスクワの輸送



14日、モスクワのFESCO本社で中谷蔵・石井隆一知事(右)とイスリン社長(左)の自撮り写真

石井知事は、伏木富山港は日本海側の対ロシア貿易でトップクラスの物流拠点となっている現状を紹介。日本から欧州への貨物輸出はスエズ運河経路の海路による30、40日が通常だが、シベリア経路の輸送迅速化が実現すれば、「世界の物流が変わり、その周辺のロシアや日本にも有益となる」と強調した。

## 極東と口・欧州国境間は7日

### 石井知事の協力要請に明言

ロシアに貨物到着後、日数がかかる要因を尋ねた石井知事は「107年前に歌人の与謝野晶子が東京からモスクワまで12日、ウラジオストクからモスクワ間は9日に到着した話を持ち出し、ロシア側に「世界ウラジオーモスクワ間9300キロの物流に役に立つ」と迅速な対応を訴えた。

【モスクワ共同】富山県の石井隆一知事は14日、モスクワで極東船舶公社(FESCO)のイスリン社長と会談し、伏木富山港からロシア極東ウラジオストク港を経由してシベリア鉄道でモスクワなど欧州方面に貨物を輸送する際の日数短縮に向けて協力を求めた。

### 「北陸新幹線なら丸2日」夕食会で話題

石井知事は13日、モスクワ市内で同市幹部らロシア側との夕食会に臨み、北陸新幹線を引き合いにシベリア鉄道を使った貨物の輸送日数の短縮を求める場面があった。

井氏に対し、イスリン氏は「税関当局や物流企業が原因ではなく、荷主の書類不備で遅れるケースが多い」と指摘。荷主との連携を強化できれば迅速化が可能だと語った。

石井知事は会談後、埼玉、茨城、岡山、鹿児島県の4知事と共にロシアで大統領、首相に次ぐナンバースのマトビエンコ上院議長を表敬訪問。